ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									

シートNO.

ボーリング名	No.3(H21)	調査位置						北　緯	36 ° 24 ' 52.0000 "
発 注 機 関	栃木県下水道管理事務所			調査期間	2009-10-19 ～ 2009-10-20			東　経	139 ° 51 ' 58.8000 "
調 査 業 者 名		主任技師		現　場 代 理 人		コ　ア 鑑 定 者		ボーリング責任者	
孔 口 標 高	62.65 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	
総 掘 進 長	18.35 m							試 錐 機	ハンマー落下用具
								エンジン	ポ ン プ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1	61.05	1.60	1.60		盛土(礫混じりシルト)(BS)	褐灰		中位	造成時の盛土であり礫混じりシルトが主体 含水量やや多く粘性大きい 1.55m付近に金属片を確認		10/19 4.05
2	60.55	0.50	2.10		黒ボク(Kb)	黒褐	軟らかい中位		含水量がやや大きく粘性小さい 腐植物を混入している		
3	59.65	0.90	3.00		ローム(Lm)	褐			含水量が中位で粘性は小さい 下部半固結し硬い		
4	58.35	1.30	4.30		鹿沼軽石(Pm)	黄褐		軟い	φ2～4mmの粒径で多孔質構造を呈す 含水量は非常に多い 4.0m付近から赤褐色を呈す		
5	56.15	2.20	6.50		火山灰質粘土(CHV)	褐～緑灰		中位	ローム層が水中変質したものである 含水量はやや少なく粘性小さい 5.70m付近から固結し非常に硬い 6.35～6.50m間は細砂を呈す		
7	54.55	1.60	8.10		粘土混じり砂礫(GS-C)	褐	中ぐらい		φ10～50mmの円・亜円礫で構成 礫間は粒径不揃いな砂と多量の粘土により充填されている 風化礫が多く混じる 6.00～6.80m間は漏水があり孔壁が崩壊し易い		
9	53.25	1.30	9.40		粘土(CH)	黄褐		軟らかい	上部は含水量多く粘性大きいが下位に従い含水量少なく固結度が増す 9.0m付近から半固結状を呈し硬い		
10	51.85	1.40	10.80		中砂(MS)	暗灰	中ぐらい		粒径不揃いな中砂を呈す 上部9.8m付近まで細砂が優勢 9.8～9.9m間は礫層を挟む		
11	50.65	1.20	12.00		細砂(FS)	暗灰	非常に密な		粒径不揃いな細砂を呈す シルトの薄層をシーム状に挟む 非常に締まった堆積状態である		
12	49.95	0.70	12.70		シルト混じり細砂(FS-M)	暗灰	非常に密な		粒径均一な細粒砂を呈し，シルトで充填されている 固結の程度が高く非常に締まって堆積している		
13	48.15	1.80	14.50		礫混じり粗砂(CS-G)	褐灰	中ぐらい		粒径不揃いな粗砂を呈す φ5～10mm程度の円,亜円礫が混じる シルト分が不規則に混じる		
15					砂礫(GS)	淡灰	密な		φ10～50mmの円・亜円礫で構成されている 礫間は粒径不揃いな砂と少量のシルトにより充填されている 所どころ礫が少ない部位を挟んでいる 16.0m付近より粘土シルト分が多く混じる 全体に非常に締まって堆積しており，孔壁の崩壊はなく自立性高い		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1	1	2／12	4／32	4
1.47					
2.15	1	2／14	1／6	4／30	4
2.45					
3.15	1／20	1／15		2／35	2
3.50					
4.15	1／57			1／57	1
4.72					
5.15	2	1	2	5／30	5
5.45					
6.15	7	6	9	22／30	22
6.45					
7.15	9	7	9	25／30	25
7.45					
8.15	1／11	1／11	1／8	3／30	3
8.45					
9.15	3	6	7	16／30	16
9.45					
10.15	8	9	10	27／30	27
10.45					
11.15	15	28	7／2	50／22	>50
11.37					
12.15	34	16／3		50／13	>50
12.28					
13.15	7	7	8	22／30	22
13.45					
14.15	6	6	6	18／30	18
14.45					
15.15	9	10	17	36／30	36
15.45					
16.00	50			50／10	>50
16.10					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験

掘進月日: 10/19

17					砂礫 (GS)	淡灰	密な		φ10～50mmの円・亜円礫で構成されている 礫間は粒径不揃いな砂と少量のシルトにより充填されている 所どころ礫が少ない部位を挟んでいる 16.0m付近より粘土シルト分が多く混じる 全体に非常に締まって堆積しており，孔壁の崩壊はなく自立性高い			16.10	50			10	>50													
												17.15	20	30 / 9		50 / 19	>50													
18												17.34																				
	44.30	3.85	18.35									18.15	34	16		50 / 20	>50													10/20
												18.35																				